

**製品名: MBD3 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13684**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	33kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MBD3
別名	MBD3; Methyl-CpG-binding domain protein 3; Methyl-CpG-binding protein MBD3
遺伝子 ID	53615.0
SwissProt ID	O95983
免疫原	抗血清はヒト MBD3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270

**背景**

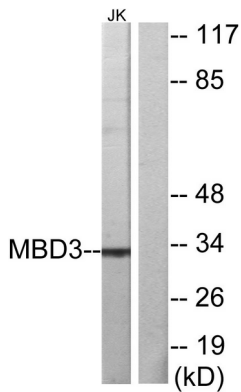
DNA メチル化は真核生物ゲノムの主要な修飾であり、哺乳類の発生において重要な役割を果たします。この遺伝子は、メチル CpG 結合ドメイン (MBD) の存在を特徴とする核タンパク質ファミリーに属します。コードされているタンパク質は、ヌクレオソームリ

モデリング活性とヒストン脱アセチル化酵素活性を含む多サブユニット複合体である NuRD のサブユニットです。他のファミリーメンバーとは異なり、コードされているタンパク質はメチル化 DNA に結合できません。このタンパク質は、転移関連タンパク質 2 とコアヒストン脱アセチル化酵素複合体との結合を媒介します。選択的スプライシングにより、この遺伝子には複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013 年 7 月]、機能: 単独では DNA に結合しません。ヒストン脱アセチル化酵素と DNA メチル基転移酵素をリクルートします。転写抑制因子として作用し、遺伝子サイレンシングに関与する。類似性: 1 つの MBD (メチル CpG 結合) ドメインを含む。細胞内局在: 核内に散在する。サブユニット: MBD2 とのヘテロ二量体。NuRD および MeCP1 複合体の一部。HDAC1、MTA2、DNMT1、p66- $\alpha$ 、p66- $\beta$  に結合する。

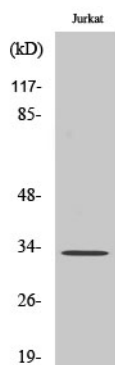
## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

## 画像データ



MBD3 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MBD3 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析